

平成 29 年 9 月 6 日

北海道サッカー協会 審判委員会 各位

北海道レフェリーアカデミー第 6 回 議事録

報告者：板矢 智志（札幌）

<日 時> 平成 29 年 9 月 2 日（土）、9 月 3 日（日）

<場 所> 中標津町運動公園、中標津町総合文化会館しるべっと

<参加者>

アカデミーマスター：山崎 裕彦 氏

インストラクター：森 英樹 氏 阿部 義秀 氏 山下 浩司 氏
今川 一輔 氏 村山 尚哉 氏

審判員：堀 悠雅、宗像 瞭、板矢 智志、須摩 和樹

9 月 2 日（土）

9：30 集合 中標津町運動公園

11：00 2017 年度 第 24 回全国クラブチームサッカー選手権北海道大会

帯広蹴球団- トヨタ自動車北海道サッカー部

(R：堀 悠雅 A1：二ノ宮 僚介 A2：茂木 直矢
4th：小島 実)

11：00 VERDELAZZO 旭川-札幌北大クラブ

(R：宗像 瞭 A1：杉島 玲 A2：勝瀬 雅彦
4th：たも木 直人)



13：00 蹴鞠会-札幌ヒヤシンス FC

(R：須摩 和樹 A1：勝瀬 雅彦 A2：杉島 玲 4th：堀 悠雅)

13：00 NFC レグルス-VAIN FC 伊達

(R：板矢 智志 A1：茂木 直矢 A2：二ノ宮 僚介 4th：宗像 瞭)

15：00 移動・軽食（中標津町総合文化会館しるべっとへ）

15：30 「日頃感じていること」 社会人連盟 八島 隆志 氏



マッチコミッショナー（MC）には様々な役割がある。審判員及び選手が控え室に戻るまで会場を監視、審判員が周りからのプレッシャー等を配慮した控え室の環境づくり、試合の中断、中止等の協議など、審判員に多くの関わりや配慮をしていただくことも多い。MC は周辺関係者から信頼されていなければならない。より良い MC になるためには、競技規則の熟知、客観的冷静な判断、常識力、日々のトレーニングが必要であり、審判員と類似している点が多い。審判員はたたずまいが大切であり、ストックにトレーニングをすることが必要だと感じている。また、良いコミュニケーションとは何かについて考えるべきである。親すぎて選手の集中を損ねることや、自分のミスを取り消す目的でコミュニケーションを図ることが良いことではない。コミュニケーションは、まずは、しっかりと判定して信頼関係を構築するところを求めることが大切である。

16:30 審判員のプレゼン 「役割」 須摩和樹

サッカーの役割や選手、サポーターの役割などサッカーに携わる方々の役割について述べた。サッカーは、つながりを作る重要な役割をしている。喜びや感動を分かち合う中で、全道、全国的にサッカー仲間を増やすだけではなく、時には国と国の繋がりへと発展することもある。その中で、審判員は選手がプレーに集中でき、スムーズな進行していくことが求められる。また、みている人々にフェアプレーだと感じてもらうことも重要である。



16:45 ビデオクリップディスカッション 「DOGSO」山崎アカデミーマスター



「DOGSO」は決定的な得点の機会の阻止のことで、Deny an Obvious Goal-Scoring Opportunity の略である。Obvious 「明らかに」という意味があるため、センタリング等で浮き玉のボールに対するファウルは、ボールをコントロールできる可能性は極めて低いと考え、DOGSOには該当しない。相手の大きなチャンスとなる攻撃を阻止することを「SPA」と呼ばれる。Stops Promising Attack の略である。SPAとDOGSOを正しく見極めるためには、攻守が入れ替わった時に前線はどうなっているのかを把握しておくことや、試合開始時に、ある程度DFの数やFWの数を把握しておくことが重要である。体の向き、プレススピードによって、出どころを予測したり、視野を確保することが求められる。

18:00 試合分析

(帯広蹴球団-トヨタ自動車北海道サッカー部)

自己分析→マネジメント、的確なアドバンテージ、アシスタントへチャレンジした際のポジショニング修正を意識した。マネジメントに関しては判定基準にばらつきが生じ、そのため自分で根拠を持つことができずマネジメントをうまく行うことができなかった。アドバンテージに関しては笛のタイミングなどを意識して行ったが結果的に適用すべき状況はなかった。ポジショニングは全体を通してスピードの緩急がなく一定で走っていることが多かった。そのために見えているものの距離は若干生じてしまったので、改善して行きたい。



INS分析→動きに関してスピードの緩急があればよかった。何をみたいのかということは明確になりつつあるが、距離があるかもしれない。ただ笛を持ってフィールドに入っているのではないか。オフサイドの再開場所はもっと主審がリードすべき。



(VERDELAZZO 旭川-札幌北大クラブ)

R 自己分析→試合の中での課題として動きとポジショニングの中で、「見るものの優先順位を的確にする」というものを掲げ、特にゴー

ル前の事象を優先順位高く、ベストなポジションで見られるように意識をした。結果として前半は身体が重く感じられ、また、ゴール前を見ようとしすぎて幅のある動きが少なく、判定も自信を持って見れたものは多くなかった。逆に後半は幅のある動きで、かつ、ゴール前を見る場面・思い切ってサイド奥深くまで侵入していく動きが使い分けられ、判定についても自信を持てるものが多かった。

INS 分析→スプリントを使うべき場面を感じ取れている意識が見られていてその点については良かった。ただし、スプリントしているときに、何を考えているか。何を見に行こうとしているのか意識を持つ場面をもっと増やしていけると良いと思う。また、後半終盤にかけて、フォームが崩れ、疲れているような印象を受けた。やっている中では気づかないような崩れ方だが、見栄えの部分で課題となってしまうので要注意

(蹴鞠会-札幌ヒヤシンス FC)

R 自己分析→70分の中で自分が試合前に決めていたテーマ通りに自分の前でプレーをしてもらうことができている。しかし、予測のつかない事象が起きた際に冷静でいれず、バタバタしてしまった。冷静でいることができなかつた事で、周りを見ることができなくなり、その後ミスが多くなった。審判団4人で協力することができた。



INS 分析→自分が思っていないことが起きても試合の中で瞬時に切り替えることが重要だとアドバイスいただいた。ボールを回している最中FWの選手を見ることはできているが、体の向きが悪い時にボールウォッチャーになってしまい、前線にボールが入った際に遅れて争点に行っている。スプリントの際に体がぶれていたため、並走している際に周りが見えなくなっている時があった。

(NFC レグルス-VAIN FC 伊達)

R 自己分析→起こりうる可能性を想定した上で細かくポジショニング修正をしたため、GK、CK、スローインの判定は確実に行うことができた。両チームのプレッシャーがあまりなかったため、フリーな状況でどこにでもパスを出せる状態が多かった。広い視野を保ちつつ、周りの競技者の動きを把握できていたため、適切なポジションをとり続けることができた。オフサイドの採用を2度も誤った場面があり、どちらも副審からは判断のつきにくい場面だった。オフサイドの最終決定の責任をもっと感じたい。

INS 分析→動きで、進行方向とは逆の方向に動いてしまう場面が度々見られ、後追いになっているとあった。また、レフェリーサイドに膨らんでしまう場面があり、次への争点に遅れてしまう可能性も考えられるため、何をしたいのかを考え、適切な動きをすべきである。FKのマネジメントでは、ボールの管理をしっかりしていないこともあり、競技者が若干ずらしてしまうケースもあった。

19 : 30 振り返り

20 : 00 1日目日程終了

2日目

8:00 集合 (中標津町運動公園)

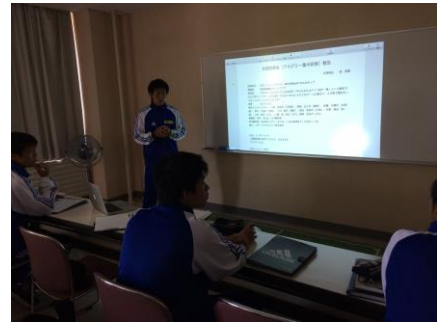
9:30 準決勝 トヨタ自動車北海道サッカー部-札幌北大クラブ
(R:宗像 瞭 A1:須摩 和樹 A2:二ノ宮 僚介 4th:藤本 哉)

準決勝 札幌ヒヤシンス FC-VAIN FC 伊達
(R:板矢 智志 A1:堀 悠雅 A2:勝瀬 雅彦 4th:茂木 直矢)

11:30 移動 昼食

12:30 レフェリーアカデミー集中講習 報告 堀 悠雅、宗像 瞭

初日に行われたプラクティカルは、実践的であり、どのシチュエーションでどの場面でどうすべきかを考えることが大切で、北海道の審判員もそのような意識で行わなければならないと痛感した。遅延行為、異議に対する対応は、レフェリー個々の我慢具合で基準がずれてしまうのはおかしい。それに対する理解も深めなければならない。1級審判員に求められるものはサッカーの理解、フィジカル、自己分析、ポジショニングと動きである。成功するためには失敗し、改善をしていくことが必要である。全国のアカデミー生の方が意気込みや意識が高く、もっと高いレベルで話し合ったり、試合分析を共有していくべきである。



13:30 試合分析

(トヨタ自動車北海道サッカー部-札幌北大クラブ)



R 自己分析→試合を通して適切なコミュニケーションをとることができた。前半からトヨタ自動車の7番と15番がファウルを繰り返していた。15番への対応はできていたが、7番の繰り返しに対する気づきが足りてなく、対応ができていなかった。前半開始早々のアドバンテージはDFラインでもあり、体勢も良くなかったことも考えると適切とは言えなかった。20分と63分のアドバンテージは適切だったが、20分の方は遅れて挑んでいたこともあり、その後に注意をすべきだった。

INS 分析→2点目はオフサイドギリギリで抜け出し、得点となった。その際DFの競技者が副審に寄る行動を示したが、主審は気づいてすらいなかった。配慮が足りていない。トヨタ自動車7番に対しては、注意が必要となる場面が度々あった。DF競技者に対するプッシングが目立ち、DFも思うようにプレーできていなかったことがあった。

(札幌ヒヤシンス FC-VAIN FC 伊達)

R 自己分析→昨日と同じく動きとポジショニングで「見るものの優先順位を的確にする」ということを目標とし、特に昨日感触の良かった幅のあるワイドな動きを用

いながら事象を見ることを意識した。しかし、連戦の疲れからか、コンディション調整も上手くいっておらず疲労が見えてしまうパフォーマンスであったと思う。幅のある動きについても意識していたが、チームの攻め方とマッチせず、やはりチームの戦術により動きの質を変えていく必要があると強く感じた。



INS 分析→動きの面に関しては、セットプレーなど昨日指導した部分は直ぐ改善されており良い点であったと思う。このゲームでの課題は、「監視すべきところを監視できているか」というところで、例えばFKの再開場所を主審が指定した後に、目を離したためずらされるだとか、負傷者の再入場を、認識できていなかったがために笛を吹いて完全に試合を止めてしまったとかである。落ち着いて周りを見てしっかり情報収集ができる冷静さを保ち続けられるとそのようなことが自然とできてくるのだと思う。

14 : 45 ふりかえり・諸連絡

15 : 00 解散

